

氣候は寒暑共に烈しく、五六月も尙ほ霰雪を下し、七八月に至れば俄然大暑と爲る物産には大小麥、黍、蕎麥及び馬匹あるのみ。官設の馬廠は、之を東廠と稱す。

## 第二節 哈密より烏魯木齊に到る

### 一 哈密以西は沙島多し

哈密に滞在すること四日間、二月四日午後五時十分此を發し回城の北門外を経て、北行少時、其の北側に哈密回部王歴代の陵を見る頭堡を過ぎて、行程約十三里、二堡に泊す。時に五日午前四時とす。

地形は同じく沙漠帯に相違なきも、哈密以西は、之を以南の瀚海と謂へるに比せば、天山の南麓に沿ひ、水草共に潤澤、從ふて農牧に適するの地にして楊柳の繁茂する處、所謂沙島少からざるに因り、自ら人民も其の數を増し、現に頭坡の如きは、十餘家一小街を成形して、而も尙ほ其の東方に、點々數十家の楊柳間に隱現し、農業及牧畜に従事するを認む。又二堡は八十餘家、内纏頭五十戸、漢回七戸、漢人二十戸、耕地七八十畝あり、纏頭の大部之を耕し、桃、梨等の果物麥、竝に羊、牛、馬、駱駝を産して、燃料